

**文化遺産国際協力コンソーシアム 第2回研究会「リビング・ヘリテージの国際協力」
アンケート集計結果**

2008年1月11日

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局

総来場者数：118名（内、スタッフ兼務10名）

アンケート回答者数：47名（回収率40%）

来場者の内訳：

所属別		専門分野別	
大学院生	11	建築史	5
研究機関	10	建築設計・改修	3
コンサルタント	5	建築	2
財団・基金	4	文化政策・文化財行政	2
保存修復実施	3	文化財科学(保存、修復)	2
行政	2	遺産マネジメント	2
材料・機材取り扱い商社/メーカー	1	世界遺産学	2
資金支援企業・団体	1	考古学	2
社会貢献実施企業	1	保存修復実施・内装設計	1
学生(学部生)	1	遺産広報	1
国際機関	1	経済	1
建築設計事務所	1	国際協力	1
その他	1	文化財の活用	1
展示業務	0	都市保全	1
NPO	0	都市地域開発	1
		観光開発	1
		被服・衣料	1
		生活文化	1
		埋蔵文化財調査	1
		地域計画	1
		社会人類学	1
		文化遺産学	1
		人文科学・自然科学部門研究助.	1
		国際法	1
		文化遺産保護	1
		経済開発	1
		官民連携	1
		保存環境学(害虫防除)	1
		博物館学	1
		民族音楽学	1
		地域研究	1
		海外文化財	1
専門地域別			
アジア	17		
中央アジア	3		
国内	3		
欧州	2		
WW	2		
中近東	1		
アフリカ	1		
中南米	1		
大洋州	1		

情報入手媒体：

知人から	19
コンソーシアム会員メール	10
ICOMOS会員メール	3
コンソーシアムウェブサイト	2
東文研センターメール	2
建築学会ウェブサイト	0
チラシを見て	0

内容について:

興味深かった発表 (複数選択可)

国際協力の世界的動向、日本に求められているもの	16
ベトナム・古い町ホイアンと古い村ドンラム	11
東南アジアのリビング・ヘリテージとこれからの国際協力のあり方	20
パネルディスカッション	10
ポスター展示	8

□ コメント

【肯定的な意見】

- ・住民側と管理側のそれぞれが分かれてしまっていて実際には協力および継続ができていけない、という報告が特に印象に残った。
- ・具体的な事例:遺産と観光、住民との関係は良く理解できました。
- ・パネルディスカッションでは有意義な議論が出て良かった
- ・地元住民を分離せず、大きな枠組みの中で包括的に遺産を守っていくというイメージでした。そして現在、将来へ続く連続性のあるものというイメージもありました。おおむねイメージ通りでしたが、なぜひビング・ヘリテージが注目されるようになったか、無形・有形のつながり、現在どのような課題があるかを知ることができ、その点特に有意義でした。

【発見があった、発想が変わったとする意見】

- ・リチャード氏の発表では、建造物や街区など、ハードにばかり目がいきがちな私だったが、食物や衣服はじめ宗教・行政の主導的民族的な管理下への偏重などの問題点等、様々な視点での考えが複合して必要だと知り、改めて自分のイメージの底の浅さに気づいた。
- ・リビング・ヘリテージということばから、不動産の遺産(住居)にすむ人の話かと思いましたが、「保存」という実践そのもののあり方を問う概念と知り、感銘を受け、参考になりました。
- ・今回の先生方のお話を聞いて、今まで自分が現地にて指導してきたことを振り返ると、軸足が日本に偏っていたのが感じられた。特に三浦先生の話聞いて、もっと視野を広げて判断する姿勢が大切だと言うことを痛感した。私たちの任務は、即断・即決のケースが多く、指導的立場の方々の判断を仰ぐ時間がない場合は自分の世界も偏見ではない判断ができるように情報を常に収集したいと思った。
- ・建築や景観という有形のものの保存修復ばかりを考えてしまいがちだが、食や衣服なども含めた生活全てが「空間」としての要素であることを改めて認識させられる。特に、世界遺産化や観光化に対する地域住民との関係は、新たな概念と言うよりむしろ意識しなければならない当然の事項であると認識すべきだろう。
- ・遺産そのものが変わっていくというイメージだったが、遺産にまつわる生活があり、人々を取り巻いているものそのものがリビング・ヘリテージなのだということがわかった。
- ・遺産地域における人々の暮らしの営みと遺産の管理を両立させていくアイデアという考えを持っていました。地域の住民が遺産管理の主体の一つとなっていくことが重要だと感じました。
- ・狭い意味(無形文化遺産とイコール)でとっていましたが、コミュニティとのかかわりなど、マネジメントの面も含めて living なのだと知りました。
- ・遺跡と地域住民という線上でのイメージが、もっとより「地域社会」という面、無形文化財的要素や信仰といった広がり(面)的なイメージになりました。
- ・文化遺産の中に、衣食のイメージがなかった。文化の継承という視点から、改めて衣食住+風俗・風習の包括的な保護の重要性について考える機会となりました。
- ・有形・無形ヘリテージと並び立つものと考えていたが、それらの進行形として位置づけられていた。これが考古にとって良いことか考えさせられた。

【改善を必要とする意見】

- ・興味深いけどダラダラとして聞きづらい。話したいことをいくら話しても、半分も伝わらない。聞く人を考えて、伝えてください。
- ・特にイメージが変わったと言うことはありませんが、リビング・ヘリテージを従来の文化財保存と対立するものということがやや強調されていたように感じました。

【感想的な意見、その他の意見】

- ・目新しいコトバのようだが、過去の保存のなかにも住民と保存に関する葛藤があったのではないか。それを詳らかにみたいと思いました。
- ・問題提起として、宗教と遺産など日本は何をすればよいか考えさせられます。
- ・世界遺産を、リビング・ヘリテージの視点が見直す契機となる
- ・衣服や食文化に注目することは非常に大切で、今後もっと見直されて良いと思います。
- ・建築物を残すことは今回のヘリテージを通して重要であり、記念物になりがちなものを活用と生活・住民全体に伝えることにより残す意義を生じる。
- ・コミュニティが基礎で、リビング・ヘリテージはコミュニティを守る、ということ。
- ・町並みや建築以外の衣や食といった民俗的なお話を伺って、無形遺産と有形遺産とが関わり合ってリビング・ヘリテージとなるのだと再認識させていただきました。
- ・有形文化遺産と無形文化遺産のかかわりのむずかしさ。生活環境の変化を認めつつどう残していくかなど考えた。
- ・文化、生活遺産も変化(生活向上)も含めて守られるべきもの。これらの調和を長い時間で消化していくことが大切と思うが、進歩、変化が早い文解決策も難しいとの印象を持った。
- ・今回は建築物の保存と活用という観点に加えて、食や衣服という点からの発表もあり、今までは"保護"しなければならない文化遺産に"人"が住む難しさという点に焦点が当てられていたように感じていましたが、もっと"人"に焦点を当てた考え方に触れられたと思います。
- ・Public Archaeology、field museum、living museum、eco museum、各地で街作りが行われるも言葉だけで理解できないことが多かったが、具体的にとるべき step ができて良かった。
- ・全くよく知らなかったが、こうした遺産を観光などつなげながら後代に残していこう、地域の人々との共生を目指していこうという意識を持った人々の発表に感動しました。
- ・management が非常に困難。経験のある発表者たちもメソッドはないとのことで、改めて難しさを感じた。
- ・ヘリテージを守ってゆくために現在生活している人々との今後の経済的負担をどのようにヘッジして行くか？

【事例研究】

- ・パネルの中にあつた、レバノン、モンゴル、山中の村々など、「被支配」「被災（戦争・災害）」、「寒村へき地など（＝遊牧民）」、「放置地区」管理しにくい地区・建造物のリビング文化遺産を実際に（使用しながら保存可か）どうするか、など取り上げて欲しい
- ・ベトナムの遺跡、衣、食、住にわたる一連の発表は良かった。他の遺産でも（イスラム研）でもお願いします。
- ・オリンピック後の中国の反省点について
- ・各地でヘリテージの取り組み方
- ・海外の文化遺産に対し、修復の技術支援がどのような成果を出し、いかなる問題点を抱えているか
- ・他国のヘリテージ取り組み団体の発表、ディスカッション
- ・より多くの事例（今回の三浦氏の発表で出たラオス、カンボジア etc）とそれぞれの対策、他の事例との比較など、アジアならアジアというように区切って無形の研究者をメインにより具体的なレベルでのテーマでも面白いと思います。
- ・我が国の先進事例（リビング・ヘリテージ）を紹介していただきたい
- ・伝統文化（私は音楽が専門ですが）の観光化などを取り組んでおられる方がいたら是非紹介して欲しい。

【理念・理論など】

- ・現地の地域まちづくりと遺跡との関連づけ
- ・国と自治体、「コミュニティ」それぞれの役割と協力について
- ・「コミュニティ」をどう捉えるか
- ・リビング・ヘリテージの観光、地域プロジェクトについて。今日の参加者の専門は建築関係者が主かと思いますが、観光額に特化した専門家や事業家を交えた会が開催できればより実践的で有益な集まりになるかと思われます。
- ・今後は企業や財団がどのように遺産保護に係わっているかについての発表もあると、幅のある研究会になるのでは？と思います。
- ・ヘリテージの保存と観光開発の両立
- ・日本の ODA（文化無償等）の仕組み・制約と被援助国のニーズと現実との（否）整合性。他国との比較及び専門家の見解とは。
- ・リビング・ヘリテージの management

【日本との比較研究、日本の技術の適応に関する研究】

- ・日本の地域の取り組みと遺産。また、すでにデータベース化されているが、人不在の遺産本来のあり方など。どのように人とデータベース化された遺産を交わせるかなど
- ・日本の町並み保全における民間企業の役割
- ・日本国内におけるヘリテージの取り組み例とその活動
- ・現場で求められているスキルに対し、それを日本で学ぶ環境があるか
- ・「日本の」リビング・ヘリテージ例をテーマにしても面白いと思います。
- ・海外でのリビング・ヘリテージは国際協力コンソーシアムとして当然であるが、それと対比し、日本のリビング・ヘリテージについても海外例と比較してどうあるべきかの問題提起があっても良いと思います。

会の運営について:

会議時間

	全体の時間	各発表の時間	パネルディスカッション
長い	8	11	2
短い	15	12	19
良い・普通	6	6	3

開催曜日

平日希望 12

休日希望 10

その他、土曜日開催がいい、関西方面での開催希望がそれぞれ 1 件あり

その他要望、気がついたことなど:

【改善要望】

- ・主催者の思い入れはわかるし、語ることも多いのはわかるが、「長すぎる」。全てを聞くことは付加。半分以上は頭の中を通り過ぎていだけ。頭に残らない。頭に残らないと言うことは意味がないということ。
- ・国内における設計者のヘリテージに対する認識不足を感じる。もっと大学などの教育にも取り入れる必要を感じる。また現在設計に関係している人々に呼びかける必要があると思う。
- ・発表時間をコントロールして欲しかった。
- ・少し盛りだくさんすぎる。焦点(地域)を絞った方が良いかもしれない。
- ・パネルディスカッションを除き、項目は絞り込んで報告と質疑応答があった方が良い印象(焦点が散漫な印象)
- ・各発表の間に小休憩が欲しかった
- ・展示パネルも有意義でした。できればペーパー一枚でも紹介があるとより見やすいと思いました。
- ・事例紹介では、単なる事例の説明だけではなく、全体テーマ(国際協力のあり方)へのフィードバックのようなものがあるとよい

【その他要望】

- ・"東文研に来られない人も常時情報入手したいので、DVD 送付とか、ネット聴講できるようにしていただけると来られない人も助かります。(シンポジウムの資料や会場の発表内容を示した各配布物、議事録、ディスカッション各 DVD 等)"
- ・こういう研究会のレジュメなどを WEB で公開していただければ、反芻するのに楽です。
- ・今回出席者でメール通信可の人には、次回開催予定をお知らせください。
- ・会員以外でも参加でき、有用な資料も頂けてありがたく思います。今後も継続していただけるとうれしいです。
- ・名札があると参加者間でも話しやすいと思った。せめて発表者だけでも。みんなスーツでわかりにくいです。